

自己評価書

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取組を行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- グループホームの自己評価は、各ユニットごとに行います。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日ごろの実践や改善への取組を示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支え合い	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取組の事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取組状況を具体的かつ客観的に記入します。
(実施できているか、実施できていないかにかかわらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取組内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームコスモス鶴ヶ谷
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県仙台市宮城野区鶴ヶ谷東4丁目13-8
記入者名 (管理者)	(副管理者)阿部 すえ子
記入日	平成19年 9月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価書

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営		○		
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	会社運営理念の中に掲げている。また、ホーム独自の理念をスタッフ全体で構築しその理念をリビングに掲示している。朝礼時参加者にて唱和し理念への理解を深めている。		
2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	8月に理念を見直し管理者とスタッフと共に理念の再構築した。リビングに理念を掲示し仕事する際意識し、日々スタッフ一人一人が努力し取り組んでいる。	○	*入居者様のニーズの変化に応じた理念の見直しを1年に1度は行なっていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム玄関やリビングに掲示したり、入所時パンフレットに記載しているもので説明している。地域運営推進会議開催時などに取り組みや説明を行なっている。	○	*町内会に毎月広報誌を回覧したり、地域運営推進会議を継続行っているがまだまだ地域への浸透までに至っていない。継続してホームの存在や活動を地域へ発信していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所との付き合い 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている	近隣の商店へ入居者様と買い物に出かけている。近隣のボランティアの方が立ち寄ってくれる。		
5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	7月のホームの夏祭りに子供会や地域ボランティアの方々に声かけし参加をいただいた。8月に地域の夏祭りに参加し、9月には子供会の資源回収に参加した。	○	*民生委員の方や地域ボランティアの方等を媒体とし地域情報や協力をいただきながら交流の場を広げていきたい。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	夏祭りなどへのお誘いや交流支援を働きかけている。	○	*ホームで出来る地域への働きかけをスタッフ全体で話し合い取り組めるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をスタッフ全員で行い、外部評価の結果を全員に周知している。話し合いにて改善を行なっている。	○	*課題改善項目について常にスタッフ全員で周知し実行していけるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みや状況報告なども行い意見交換している。いただいた意見を実行できるよう民生委員の方や地域の方々へ繋げていくように働きかけている。家族からの要望があった学校への見学や散歩についても民生委員の方に働きかけをお願いしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ボランティアや子供会、夏祭り参加を通じての交流が持っている。	○	*地域支援包括センター以外の市の担当者とも連携を図りサービスの質向上を行なっていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部職員が研修をうけている。また会社グループ内で役員が勉強している。	○	*地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について勉強会を持ちホーム全体で理解し、必要性のある方へ対応できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを作成し初任者研修で学ぶようにしている。	○	*定期的に勉強会を持ち虐待がおきないよう、また起こさぬよう継続してマニュアルの理解をしていきたい。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1年以上利用者の移動が無い為契約を結んだり解約していない。	○	*契約や解約の際は十分に説明し納得理解していただくよう配慮していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者を決めその方の言葉や言動を記録し家族面会時などに報告の機会を設けたりしている。	○	*ケース記録以外に苦情報告として書面に残しミニカンファレンス時にスタッフ全体で話し合い理解を深めるようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の広報誌内に担当者より生活状況をだまかに伝えている。また面会時には直接家族へ日常の様子を話している。金銭管理については1ヶ月毎で書面にて収支報告をしている。状態変化がある時には電話にて連絡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告書として記載し内容についてスタッフ全体で理解し必要時話し合いを持っている。	○	*外部者に対しては報告していないので他利用者家族などへ苦情内容を公表していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている	管理者と職員との間で不定期ではあるが面談の機会を持っている。また、月1回のグループホームの会議や毎日のミニカンファ時にも都度意見交換は行なっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成時にスタッフと話しをし必要に応じ調整対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職する際には人員の確保補充を行い申し送りができるよう努力している。		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取組</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内研修を月1回法人で行い職員1名づつ交代で参加している。また、参加者はホームスタッフへ研修の報告をしている。社外研修もスタッフが均等に必要時できるだけ参加できるよう調整している。</p>	<p>○</p> <p>*計画的に働きながらのトレーニングを管理者、リーダー中心に行っていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている</p>	<p>県グループホーム連絡協議会へ参加し、積極的に研修に参加し他のグループホームとの交流が持てるよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>*相互訪問での経験で得たものをホーム内で取りいれサービスの質の向上を図っていけるようにスタッフと話し合っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取組</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内での研修を通じてグループ内の職員同士の意見交換や交流が出来るようにしている。また、年2回の役員と職員との面談を行い職場作りに反映させている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取組</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者の設定した業務目標の目標達成度や貢献度を検討して、昇給、昇格、賞与などに反映させている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>面談日程と必要回数予定しその中で話をよく聴きアセスメントをしていきホームに早くなれるように援助していく。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>面談日程を必要回数予定しその中で話をよく聴きアセスメントをして何を重要としているのか要望を聞く努力をしている。</p>	

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とした支援を理解し対応する努力をしている。		
26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況を見極め個々に合った対応が出来るよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	出来る事での本人への働きかけや自然に手伝っていただける様な声かけや場面作りをしている。また、得意分野を理解しそれを発揮できるよう援助している。		
28	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事や面会の時には、お客様ではなく協力していただける所はお手伝いしてもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出外泊も自由であり、面会時間も柔軟に対応している。家族へ連絡を取りたい時は本人へ電話をかけてもらったり、本人が直接電話をかけている。		
30	○なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会の機会を持てるよう家族と協力して行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士がかかわり合い、支え合えるように努めている	トラブルなど起きないようにスタッフが状況把握し都度対応している。食席を利用者同士の関わり方によって随意時変更し配慮に努めている		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	利用終了した家族や利用者とは連絡が取れておらず、継続的な関わりのニーズがなかった。	○	*利用終了後も関わりが必要のある方には、付き合いが継続していけるように配慮していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールを活用し(センター方式)家族と共に考え本人本位になるよう努力している。	○	*家族とスタッフ間で話す機会を年1回は個々で持てるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りやスタッフ間で話合いを持っている。センター方式のアセスメントツール(センター方式)を活用し把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様の個々のペースに合わせて日常生活活動を行なっている。毎日のミニカンファや毎月の会議時に必要に応じ話し合っている。月に1度のモニタリング評価で日々の把握に努めている。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画時期にスタッフ間で話合い、必要に応じ家族に意見を求めている。本人との話合いは日々の中で意思確認するようにしている。	○	*家族と連絡を密に取り意見を反映していきたい。また理解可能な利用者に関しては本人との話合いの機会を持てていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは3ヶ月毎で行なっている。状況変化のある方に対しては1ヶ月単位での変更をしている。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録内に利用者の話した言葉や行動を記載しスタッフ毎に読んだら捺印し情報の共有をしている。その上で日々の実践やアセスメントの参考にし計画変更に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況にあわせて必要な支援を提供している。(通院や外出を行なっている。)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	週1回程度ボランティアによる大正琴を演奏をしていただき、それに合わせ歌をうたっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービスの利用はない。	○	*本人意向や必要性があれば他のサービスやインフォーマルなサービスなども支援が出来るよう配慮していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、広報誌の送付と地域運営推進会議に参加いただき、健康講話をしていただいたり地域資源について相談したり情報交換という形での協働をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族とホーム側で相談した上で、24時間対応のクリニックが主治医となっており入居者様に病状変化がある場合ホームから連絡し指示を仰いでいる。		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>*退所者がでた場合、十分に話し合いを持ちスムーズに対応できるようにしたい。</p>

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない	尊厳を尊重した対応の努力はしているが1年以上利用者と生活していることもあり、時として馴れ合い言葉になってしまう場面がある。記録はできるだけ目に触れない場所で記入し収納している。	○ *スタッフ間で言葉かけや対応について話し合い尊厳を損なわないように努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働き掛けたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の状態に応じた対応や本人の意思を尊重する努力をしている。	○ *ホームは入居者様の生活の場であり主体である事の理解を深め個々の支援に努めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人のペースにあった支援をするよう努力している。	○ *ホームは入居者様の生活の場であり主体である事の理解を深め個々の支援に努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理・美容院へ通えるよう日程をチェックし行なっている。意思を尊重した身だしなみやお洒落に努め、選べる方には洋服選びを行なってもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食事、後片付けは声かけセッティングし利用者と職員が共に行なっている。	
55	○本人のし好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人又は家族から希望を聞き体調を考慮しながら対応している。	

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよく排せつの支援 排せつの失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、習慣を活かして気持ちよく排せつできるよう支援している	健康チェック表を活用し排泄状態を把握し援助している。、必要がある入居者様は定期トイレ誘導している。スタッフ間で個々の状態を把握し日中のリハビリパンツを減らしたり、尿パットを小さいナプキンに変えてたり配慮している。	○	*今後もリハビリパンツの必要性を見極め、可能な限り移行が少なくできるよう努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で行なわないよう努力している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日誌やケース記録で睡眠状態や疲労状態を把握し、日中の昼寝の誘導や日中活動への配慮をし安眠安息の支援をしている。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人出来ること好きな事を把握し、日常生活の中での役割や楽しみごとも含めを行なうようにしている。	○	*個別ケアを月1回以上行っているが、個々の生活史を再度見直しアセスメントして個別性のあるケアにむすび付けていくようにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる人に関しては、家族と相談し自分で管理してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	個別ケアとして外出機会を持てるようにしている。又、外出チェック表を活用し入居者様が出来る限り均等に買い物や外出できるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに掛けられる機会をつくり、支援している	全員ではないが墓参りや、兄弟を訪問、家族との外出や外食は行なっている。	○	*ホーム全体で、また、気の合う仲間同士での外出機会を計画していきたい。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了承得た上で、電話や手紙に関して本人希望に沿うように支援している。		
64	○家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は規制せず柔軟に対応し家族様にも気軽に訪問していただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルは作成している。ホームでの拘束事例はないが、身体拘束を行わないという事に関してスタッフ間で理解し対応している。		*定期的に継続してマニュアルについての勉強会を開き理解を深めていく。
66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	ホームの立地上ホームの直ぐ前に交通量の多い道路がある。勾配で車がスピードを出してくる箇所でもあり危険である。安全確保、防犯の為外門扉の鍵はかけているが、そういった事を理解いただき安全に通用できる方の為に簡易電子キーになっている。(内玄関は夜間以外あけている。居室に鍵はない)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者様の人数を把握し動きに注意を払っている。また、日中居室で過ごされることの多い方に対しても時々様子を確認したりし安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組をしている	入居者様の状況に応じ行なっている。		
69	○事故防止のための取組 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	初任者研修で学びそれぞれマニュアルとして整備している。	○	*定期的に継続してマニュアルについての勉強会を開き理解を深めていく。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し職員に周知している。訓練や勉強会は不定期に行っている。	○	* 応急手当の勉強会を開きスタッフ全体で理解を深めたい。定期的に訓練を行なえるよう計画を立てていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	年2回防災訓練を行なっている。	○	* 地域の人々へ協力が得られるよう子供会やボランティアを通じ働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	アクシデントに関しては個々の利用者ごとにまとめスタッフや家族で理解するようにしている。日々の起こりうるリスクについて家族面会時などに報告、相談検討をしている。	○	* 個別でのリスクファクターの作成をしそれをスタッフ間で周知し共有の下ケアにあたれる様にしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化が見られるときは管理者(看護師)への報告や、申し送り、ケース記録で報告し必要に応じ主治医の指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容を一覧表にし効用副作用を理解するように努力している。	○	* 個々の内服薬の効用と副作用について整理しスタッフ間でよく理解できるようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働き掛け等に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳、コーヒー等の活用やレク活動時に運動を取り入れたりしている。また、便秘の方については主治医と相談し服薬の検討も行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、義歯は毎日声かけ行なっている。就寝前に入れ歯洗浄剤を使用の方もいる。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回以上の体重チェックや日々の水分量、食事摂取量を健康チェック表に記載し把握している。個別栄養アセスメントシートにて管理栄養士による指導を受けている。	○	*栄養士の面談を定期的に行なってもらえるよう計画していきたい。また利用者の状態に合わせた調理方法なども指導を受けていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	初任研修にてマニュアルを確認し予防対応を実行している。	○	*定期的に継続してマニュアルについての勉強会を開き理解を深めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理手順マニュアルに沿って調理器具の熱湯消毒や漂白剤による除菌も行なっている。毎日スーパーより次の日の食材の配達をしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外門扉には鍵がありすぐに入入りはできないが頻回に見える方には鍵番号を知らせており自由に出入りできるよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さりげない共有空間の飾りつけを季節ごと変えている。リビングの窓にブラインドが設置してあり日差しを調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下スペースに椅子を置いたり各居室にて仲の良い方と過ごせるよう配慮している。玄関前のいすで日向ぼっこが出来るスペースがある。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものは少ないが、個人差はあるが家族にも協力を得ながら居室の模様変えを行なっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、トイレ、リビングには換気扇が設置してある。1日に数回は換気を行っている。冷暖房についても外気温との温度差が3～5℃以内になるよう適宜温度調節し配慮している。トイレや一部居室に芳香剤を置いている。リビングに温度計と湿度計を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、手すり、玄関前の段差解消や浴室トイレの手すり設置済み。	○	*今後利用者のADLに応じての環境作りを定期的に行なっていきたい。
86	○分かる力を活かした環境づくり 一人ひとりの分かる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見当識への配慮と時計やカレンダーの設置、居室のネーム表示や便所表示もしている。混乱や失敗が起きても不穏にならないようスタッフ間で常に配慮対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花や野菜を植えており水撒きや草取り、収穫をしてもらったり散歩時に花を見たりしている。建物の周りは1周散歩できるよう鉄板を引いてもらい整備されている。		*利用者様、家族様と共に花壇や畑などの環境作りをしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出掛けている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼすべての家族と
		<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

様式8

項 目		
96	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように
		○ ②数日に1回程度
		○ ③たまに
		○ ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている
		○ ②少しずつ増えている
		○ ③あまり増えていない
		○ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○ ①ほぼすべての職員が
		○ ②職員の2/3くらいが
		○ ③職員の1/3くらいが
		○ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼすべての利用者が
		○ ②利用者の2/3くらいが
		○ ③利用者の1/3くらいが
		○ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼすべての家族等が
		○ ②家族等の2/3くらいが
		○ ③家族等の1/3くらいが
		○ ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員一人一人が入居者様の希望を可能な限り聞き入れ家庭的な雰囲気与生活出来るよう心がけている。